

平成 2 3 年行政事業レビューシート (厚生労働省)										
事業名		エイズ発生動向調査経費			担当部局庁		健康局		作成責任者	
事業開始・終了(予定) 年度		昭和 5 9 年度			担当課室		疾病対策課		疾病対策課 山本 尚子	
会計区分		一般会計			施策名		Ⅳ－３－４難病対策、ハンセン病対策、エイズ対策を推進する			
根拠法令 (具体的な条項も記載)		-			関係する計画、通知等		「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」平成18年厚生労働省告示第89号			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		我が国で増加傾向にあるエイズ患者・HIV感染者の情報を的確かつ迅速に把握することにより、エイズの流行阻止の施策に資する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)		都道府県からのHIV感染者、エイズ患者の報告をとりまとめ、状況を分析することで、今後のHIV感染、エイズの流行を阻止するための施策へ役立てる。								
実施方法		■直接実施 □業務委託等 □補助 □貸付 □その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)				20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
		予算 の 状 況	当初予算	3	2	3	3	4		
			補正予算							
			繰越し等							
			計	3	2	3	3	4		
		執行額		1	2	2.4				
		執行率 (%)		33.3%	100.0%	80.0%				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)		成果指標				単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
		事業の内容が、国内外のHIV及びエイズの動向調査及び分析であり、数量で評価することができないため、定量的な成果目標を示すことはできない。			成果実績	-	-	-	-	-
					達成度	%	-	-	-	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)		活動指標				単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
		事業の内容が、国内外のHIV及びエイズの動向調査及び分析であり、数量で評価することができないため、定量的な成果目標を示すことはできない。			活動実績 (当初見込み)	-	-	-	-	-
						-	-	()	()	
単位当たりコスト		-			算出根拠					
平成 2 3 ・ 2 4 年 度 予 算 内 訳	費 目		23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由					
	諸謝金		0.3	0.3	渡航先(国際会議)の変更 事業の見直し					
	職員旅費		0.5	1						
	委員等旅費		0.3	0.3						
	社会保障関係情報化業務庁費		2	3						
計		3	4							

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	－	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果		エイズの流行状況を調査・分析し、広く国民に情報提供することで、国民の意識の向上、流行防止に寄与しており、引き続き事業を実施する必要がある。	
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り			
		当該事業は、事業の必要性及び執行の観点からの評価としては概ね妥当であるが、引き続き適切な執行に努めること。	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）			
-			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

資金の流れ (資金の受け 取り先が何を 行っているか について補足 する)(単位: 百万円)	※平成22年度実績を記入
---	---

費目・使途
（「資金の流れ」
においてブロッ
クごとに最大の
金額が支出され
ている者につい
て記載する。費
目と使途の双方
で実情が分かる
ように記載）

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0